



会派みどり
山口 清悦

市内街路灯について

質問 街路灯の多くが耐用年数を過ぎ、危険な状態にあることから早急な撤去が必要である。市民の安全安心を図る観点からも撤去を推進すべきと考えるが、方針を伺う。

答弁 現在、撤去補助は2万5千円を上限に行っています。先日の方針では自立柱3灯が倒壊しました。今後、町内会にも協力を得て自立柱の状況を確認し、危険な場合は早急に撤去できるよう優先的に補助していきたいと考えています。

質問 市街地にあるデザイン灯は7～8万円の撤去費用がかかり、差額を町内会が負担してきた。町内会では、危険性を認識しているものの、金銭的理由で撤去を出来ないところもある。安全安心の観点からも補助金の増額を検討する考えはないか伺う。

答弁 補助額、補助率を含め、撤去作業に取り組みやすい仕組みを検討していかなければならないと

避難所運営について

考えています。

質問 本市の資機材の準備状況と新たに準備するべきものについて考えを伺う。

答弁 国や北海道などから示されたガイドライン等に従い、感染対策を想定した避難環境の整備に努める中で、非接触型体温計、使い捨てマスク、消毒液、パーティション、ダンボールベットの資機材の確保に努めているところです。

先般、これら資機材を持ち込んだ避難所開設訓練を中空知定自立圏構想推進会議の防災専門部会により実施しました。レイアウトなどの検討を行ったほか、緊急時には、構成する5市5町が相互に資機材の融通が図られる体制を構築しました。

最悪の事態を想定した備えを一度に実現することは容易ではないことから、一定水準での資機材の確保を図りつつ、訓練などの結果も活用して必要な資機材の種類や数量などをさらに精査しながら、今後、拡充を進めていきたいと考えています。



会派みどり
木下八重子

市の管理墓地3か所に合同墓を設置する可能性について

質問 各墓地で管理が出来なくなっているお墓が散見され、合同墓の要望が多くの市民から寄せられている。本市で管理している3か所の墓地すべてに合同墓を設置する可能性について伺う。

答弁 合同墓の設置場所については、建立を可能とする十分なスペースがある敷地とし、墓地の空き区画を活用することとしました。また、多くの方々がお参りされることを踏まえ、駐車場やトイレなどの利便性を考慮しました。

箇所数については、墓地も公共施設と捉え、公共施設の集約化が図られる中で現実的には3か所の墓地それぞれに合同墓を設置することは、管理運営面を踏まえると困難であり、設置は1か所にするのが望ましいと判断しました。これらの条件に最も相応しい場所として滝の川墓地を合同墓の設置

場所として選定しました。市民要望やニーズの高まりがある中、滝川市初となる合同墓の設置に向けて、今後は規模、構造、管理運営方法などについて内部協議を精力的に進め、事業化を目指します。

新型コロナウイルスの影響を踏まえた学校現場の対応について

質問 新型コロナウイルス感染症による授業時数の減少や学校行事の中止を踏まえ、どのように対応策を取っていくのかを伺う。

答弁 教育委員会としては、夏季休業および冬季休業期間を短縮して授業日を設定するとともに、各学校に対しては、年間指導計画の見直しや指導方法の工夫改善による教育課程の再編成、学校行事についても中止または内容や時期を変更して柔軟に対応するよう指導しています。今後も引き続き、児童生徒の「学びの保障」に向けた指導を行ってまいります。

